

事業再評価

社会資本整備総合交付金事業 一般国道409号 富里拡幅

平成28年2月3日

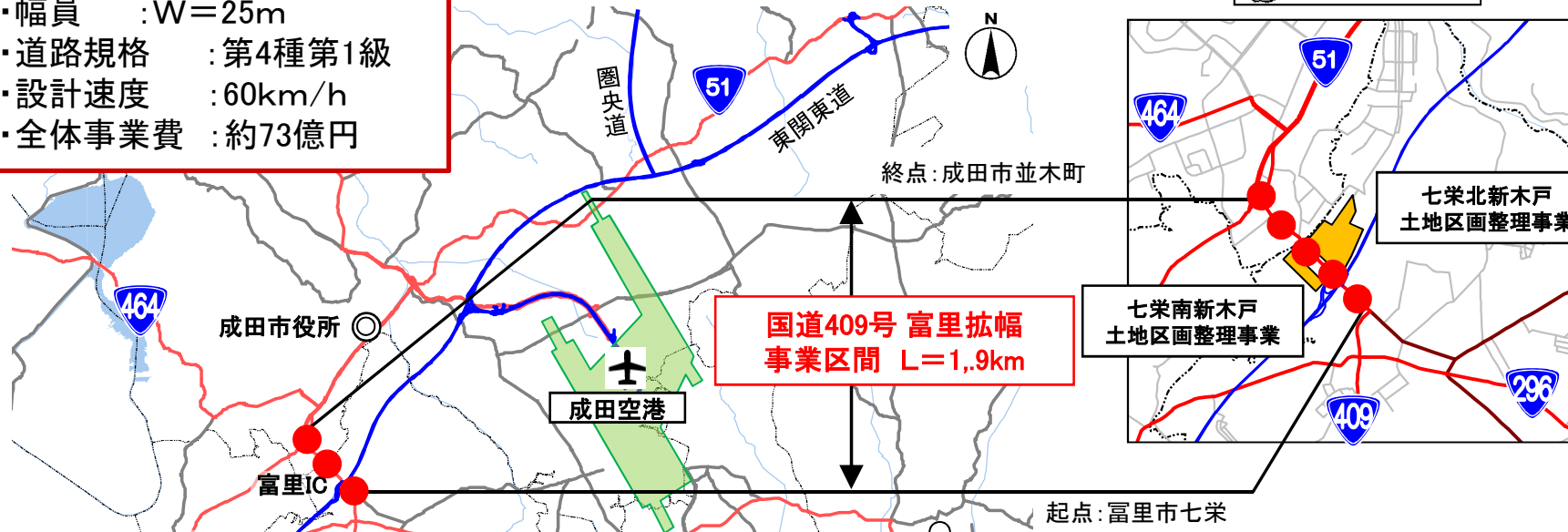
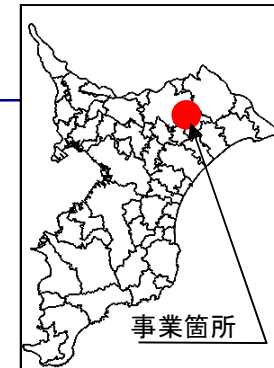
千葉県 県土整備部 道路整備課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の状況
3. 事業の必要性
4. 整備効果
5. 事業投資効果
6. コスト縮減
7. 対応方針(案)

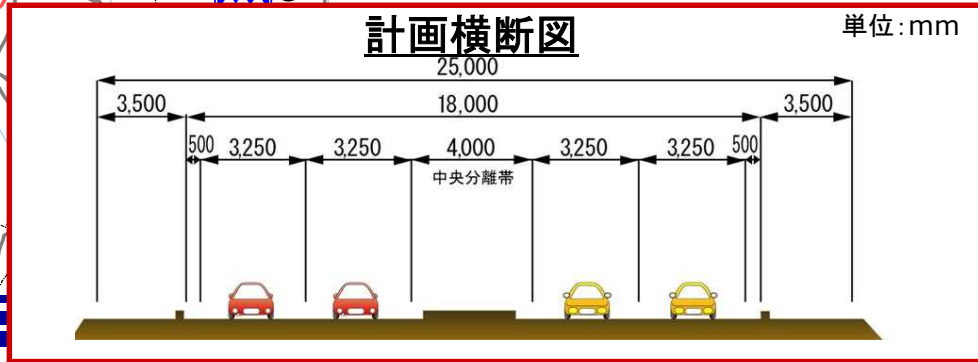
1. 事業の概要

- ・起点 : 富里市七栄
とみさとし ななえ
なりたし なみきちょう
- ・終点 : 成田市並木町
- ・延長 : L=1.9km
- ・幅員 : W=25m
- ・道路規格 : 第4種第1級
- ・設計速度 : 60km/h
- ・全体事業費 : 約73億円



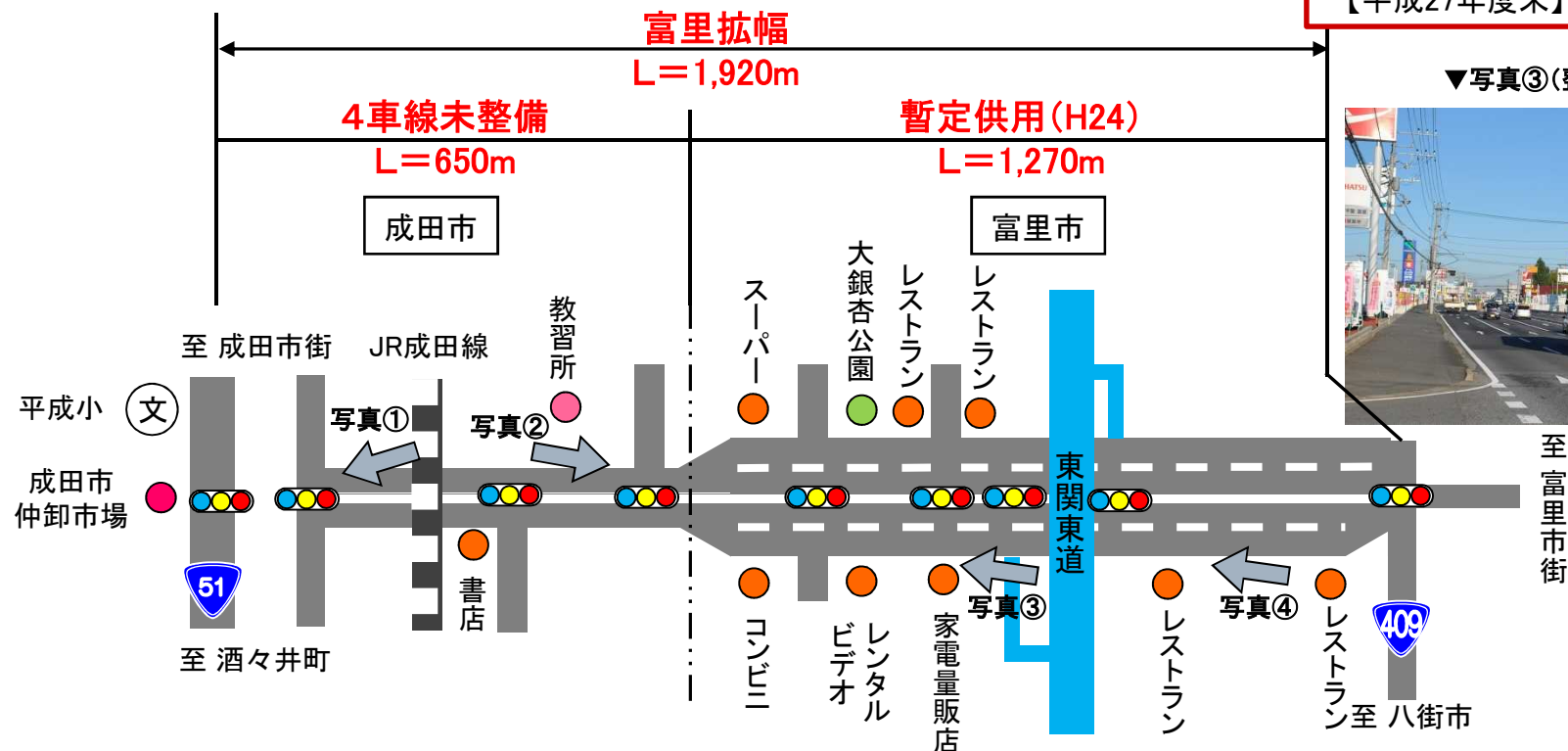
国道409号 富里拡幅
事業区間 L=1.9km

- 凡例
<道路種別>
- 高速道路
 - 国道
 - 主要地方道
 - その他道路



2. 事業の状況

・事業進捗率 81%(事業費ベース)
 ・用地進捗率 68%(面積ベース)
 【平成27年度末】



▼写真①(未整備区間)



▼写真②(整備済区間)



▼写真④(整備済区間)

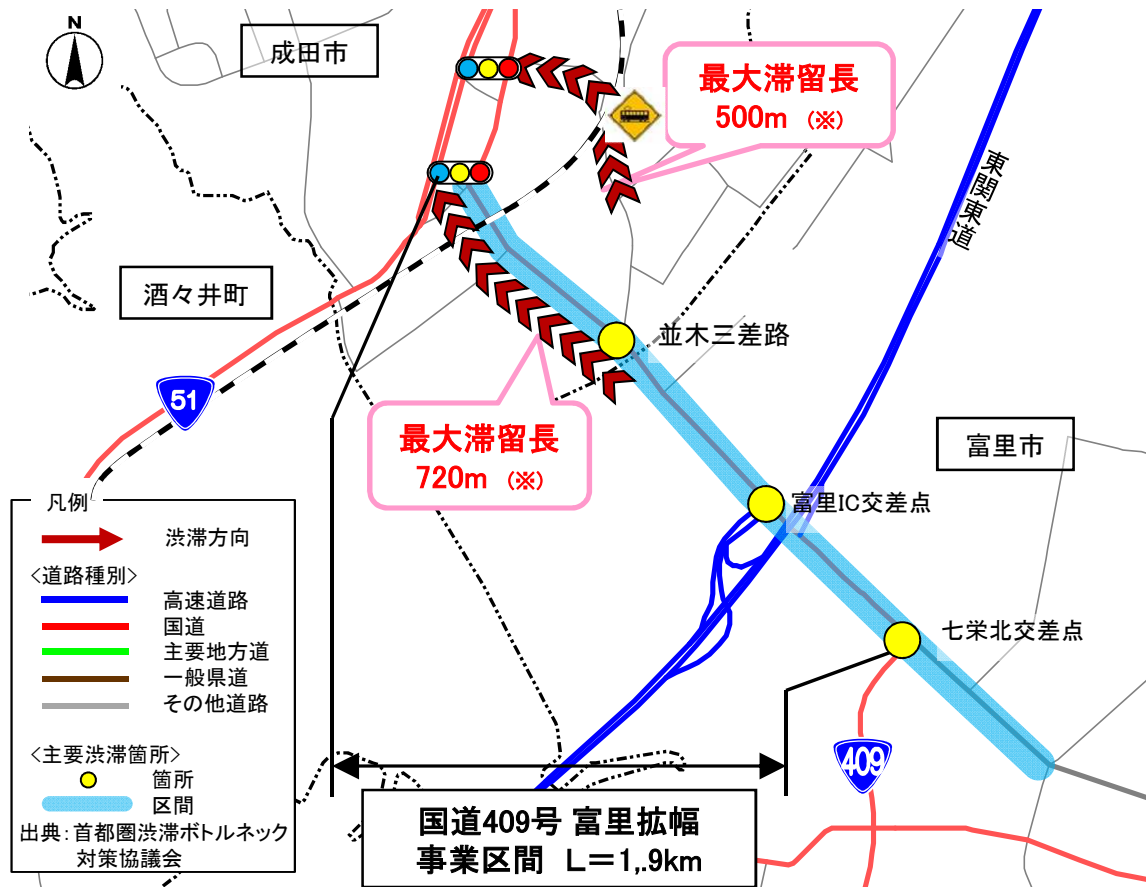


平成11年度 事業着手
 平成11年度 用地買収着手

3. 事業の必要性

(1)交通の円滑化

- ・ 成田市と富里市を結ぶ地域の幹線道路であり、朝夕を中心に渋滞が発生。
- ・ 並行する市道でも渋滞が発生。



▼国道409号の渋滞状況



▼並行市道の渋滞状況

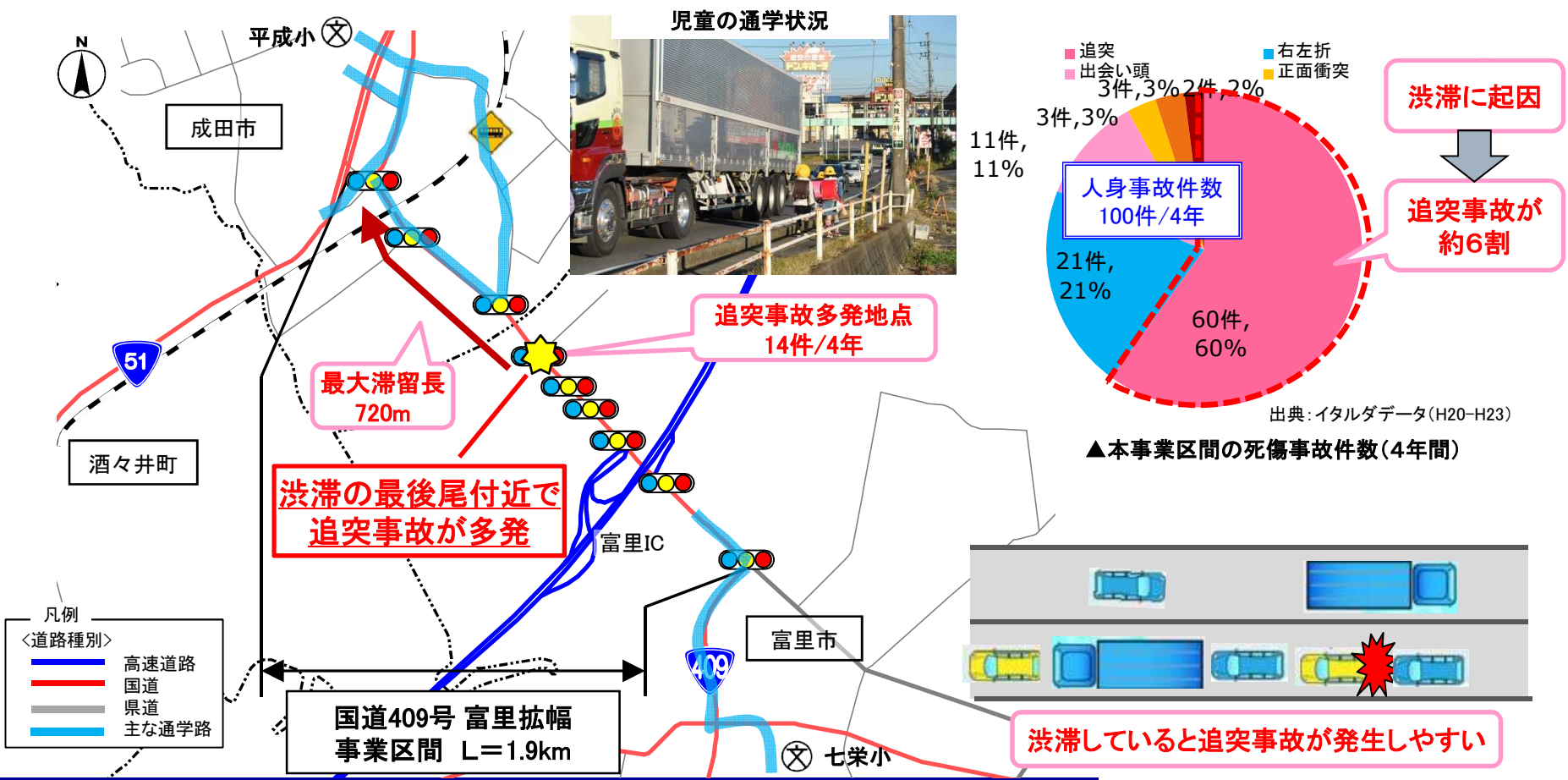


※交通量調査結果(H27.7)

3. 事業の必要性

(2)安全性の向上

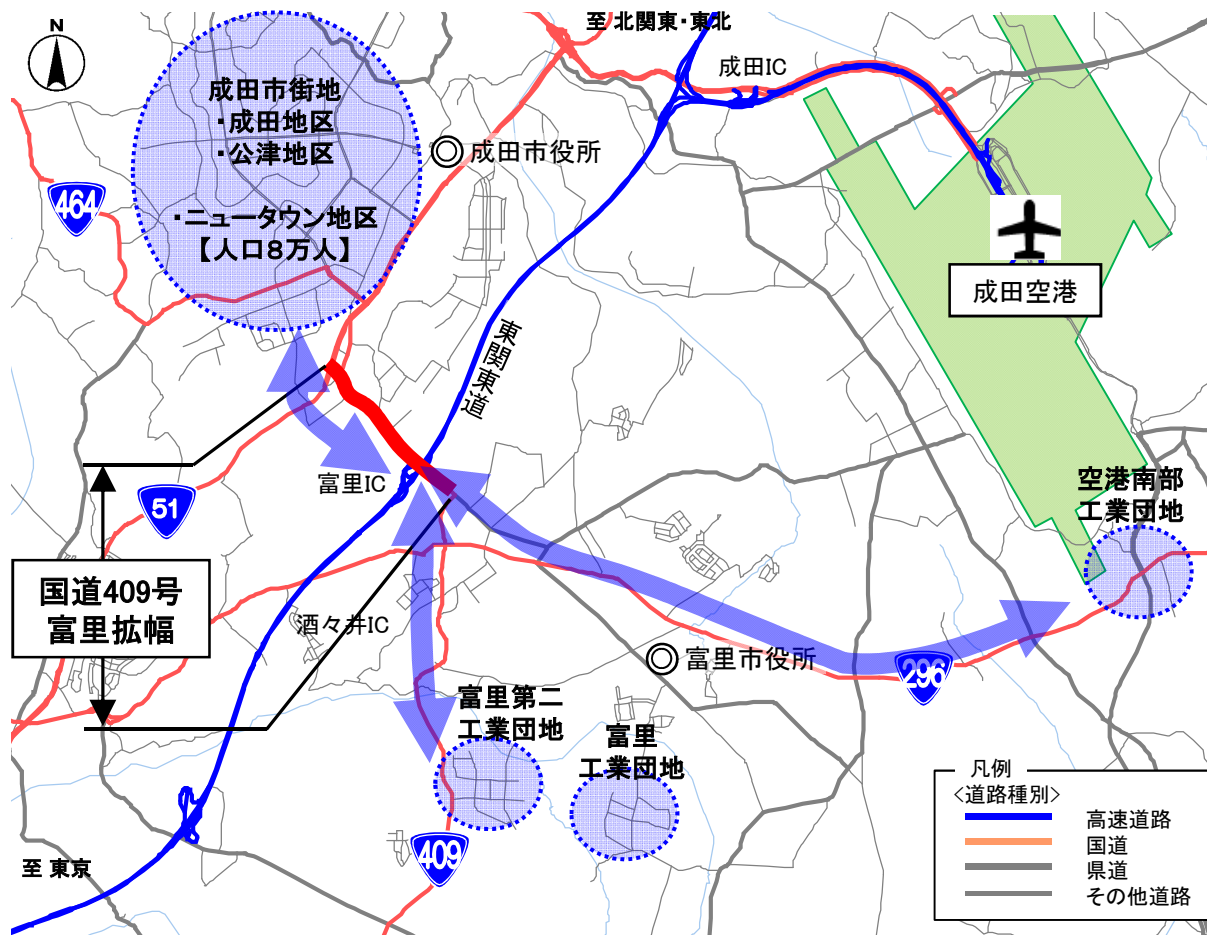
- ・ 4年間(H20~H23)で100件の人身事故のうち、6割が追突事故。
- ・ 通学路に指定されているが、幅員が狭いため、安全性の確保が必要。



3. 事業の必要性

(3)物流の効率化

- ・ 工業団地と富里ICを結ぶアクセス道路としての役割。
- ・ 渋滞の発生や幅員の狭さが円滑な物流の支障。



▼未整備区間を走行する大型車



渋滞が円滑な物流の支障

富里ICは多くの大型車が利用



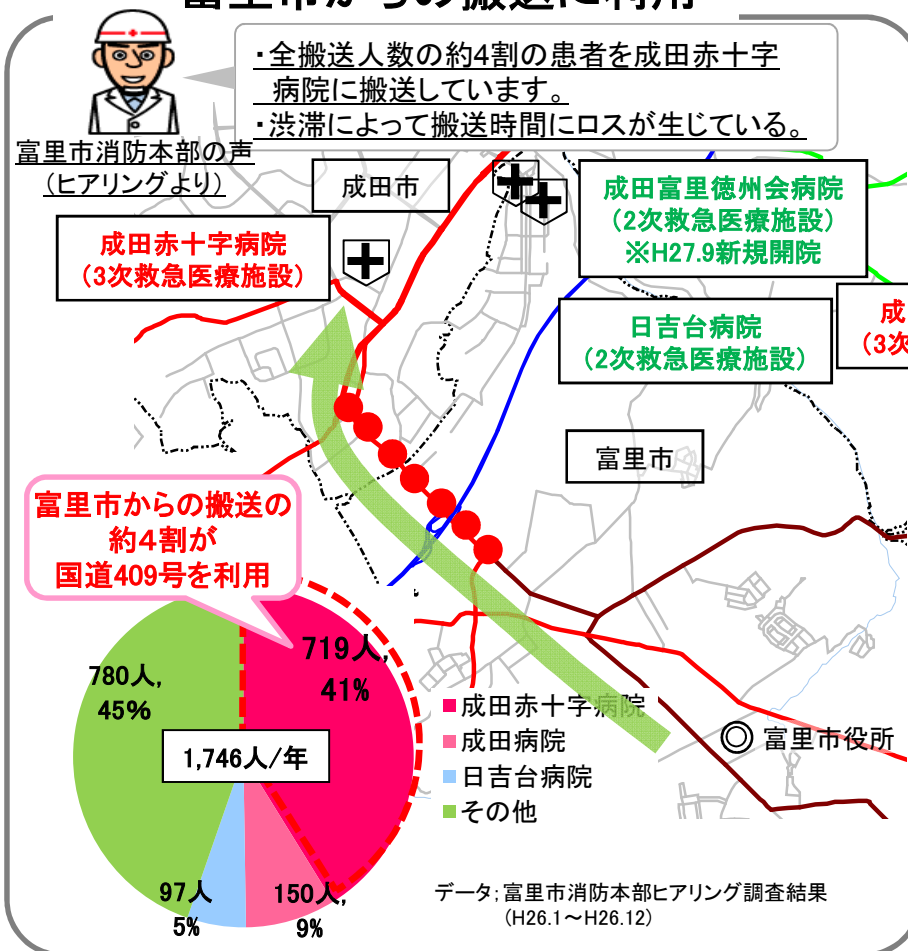
▲富里IC交差点の状況

3. 事業の必要性

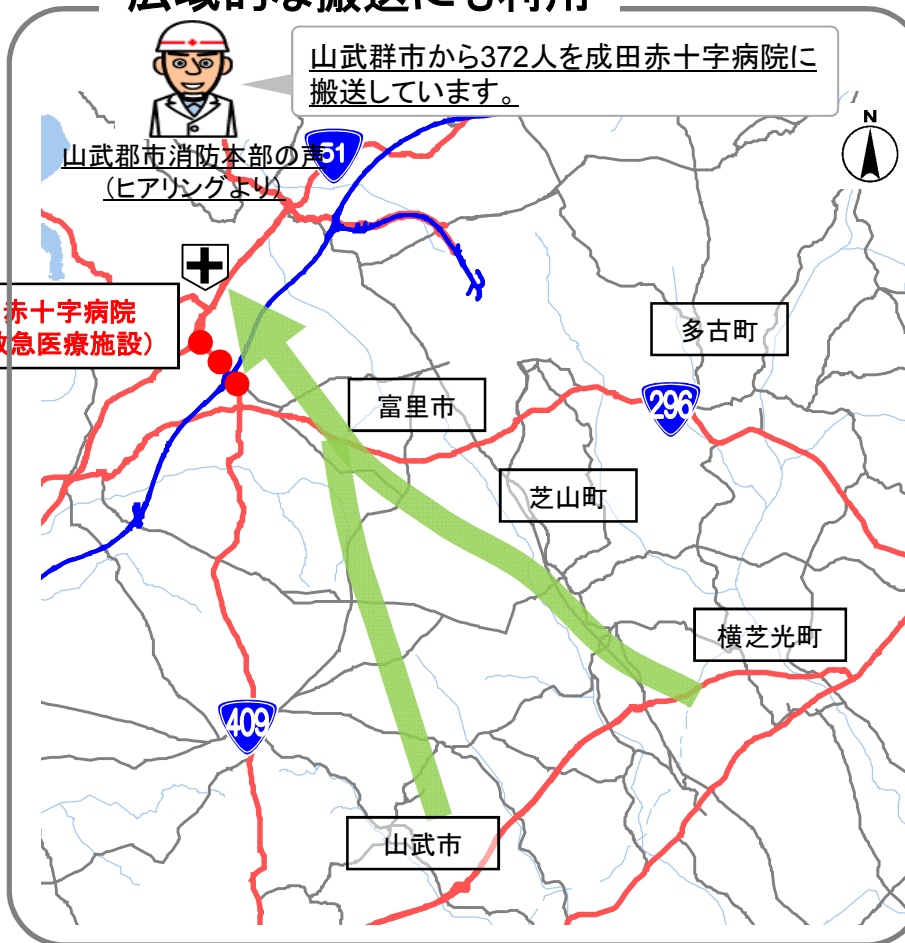
(4) 救急医療への支援

・ 交通渋滞や幅員の狭さが救急搬送に支障。

富里市からの搬送に利用



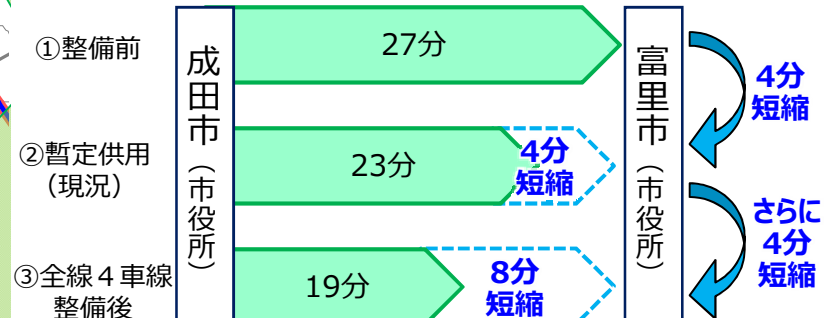
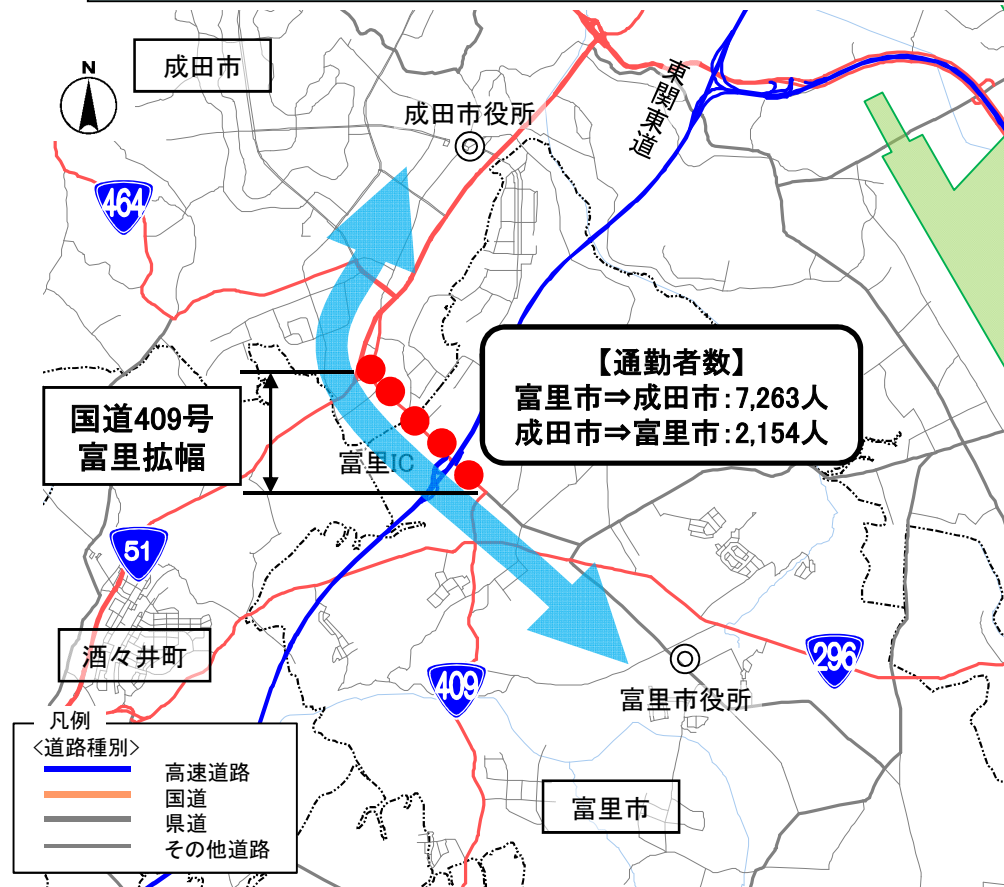
広域的な搬送にも利用



4. 整備効果

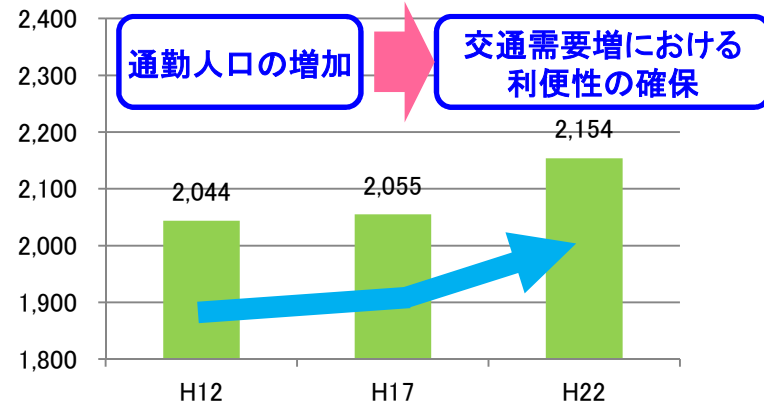
(1)交通の円滑化

- ・ 4車線化による交通容量の増大により、渋滞緩和が期待。
- ・ 所要時間が短縮され、通勤利便性が向上。



データ: 道路交通センサス(混雑時旅行速度)
 ※①はH22、②はH22 + 富里市区間規制速度(60km/h)、
 ③はH22 + 全事業区間規制速度(60km/h)で算出

▲富里市から成田市への所要時間の変化



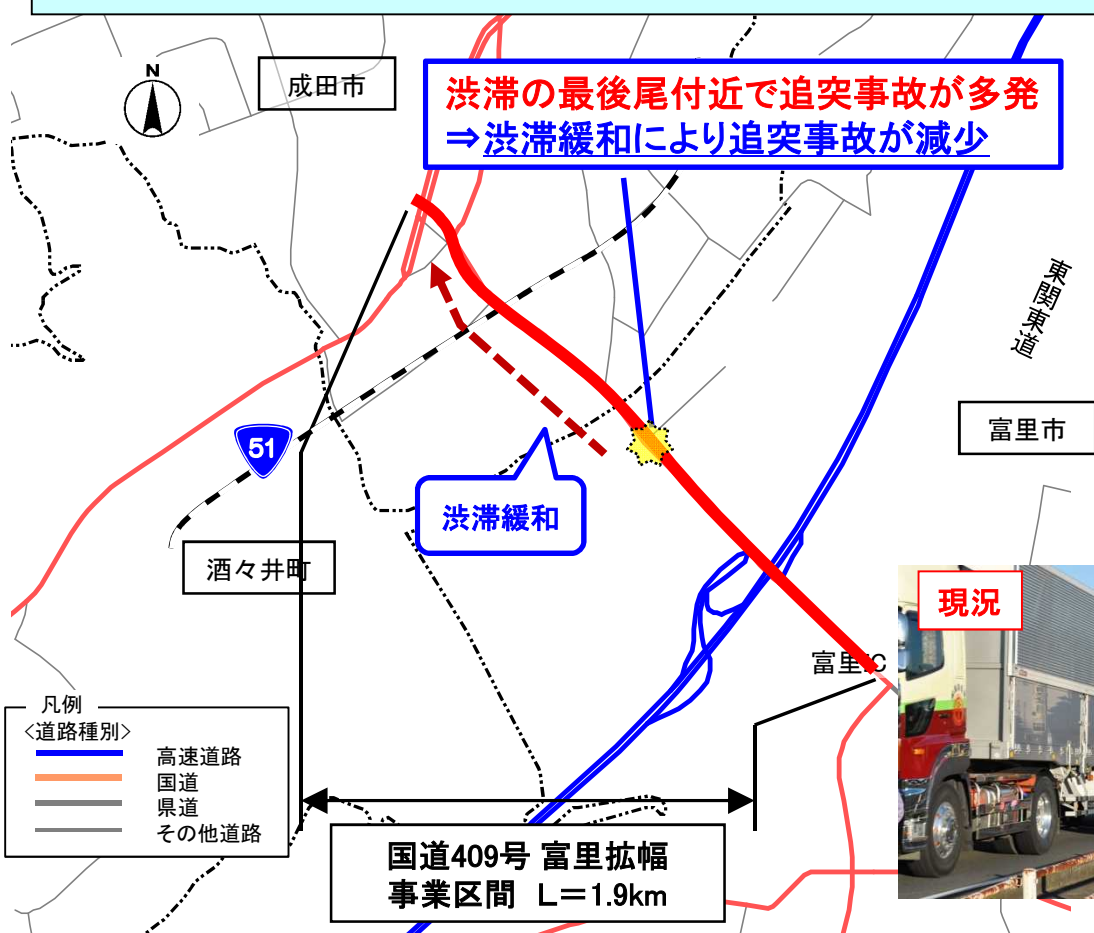
▲成田市から富里市への通勤人口の推移

データ: 各年国勢調査

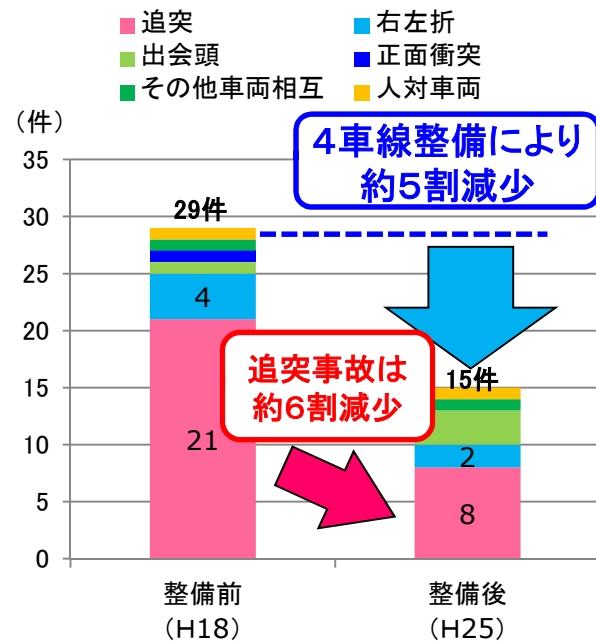
4. 整備効果

(2)安全性の向上

- ・ 追突事故をはじめとする人身事故が減少。
- ・ 歩道が拡幅され、歩行者の安全性が向上。



暫定供用区間の整備効果



データ: 千葉県事故データ

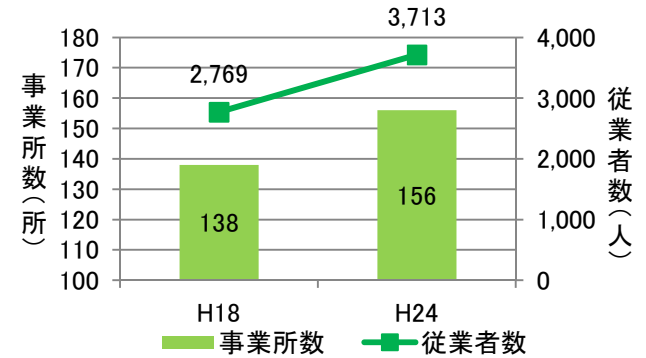
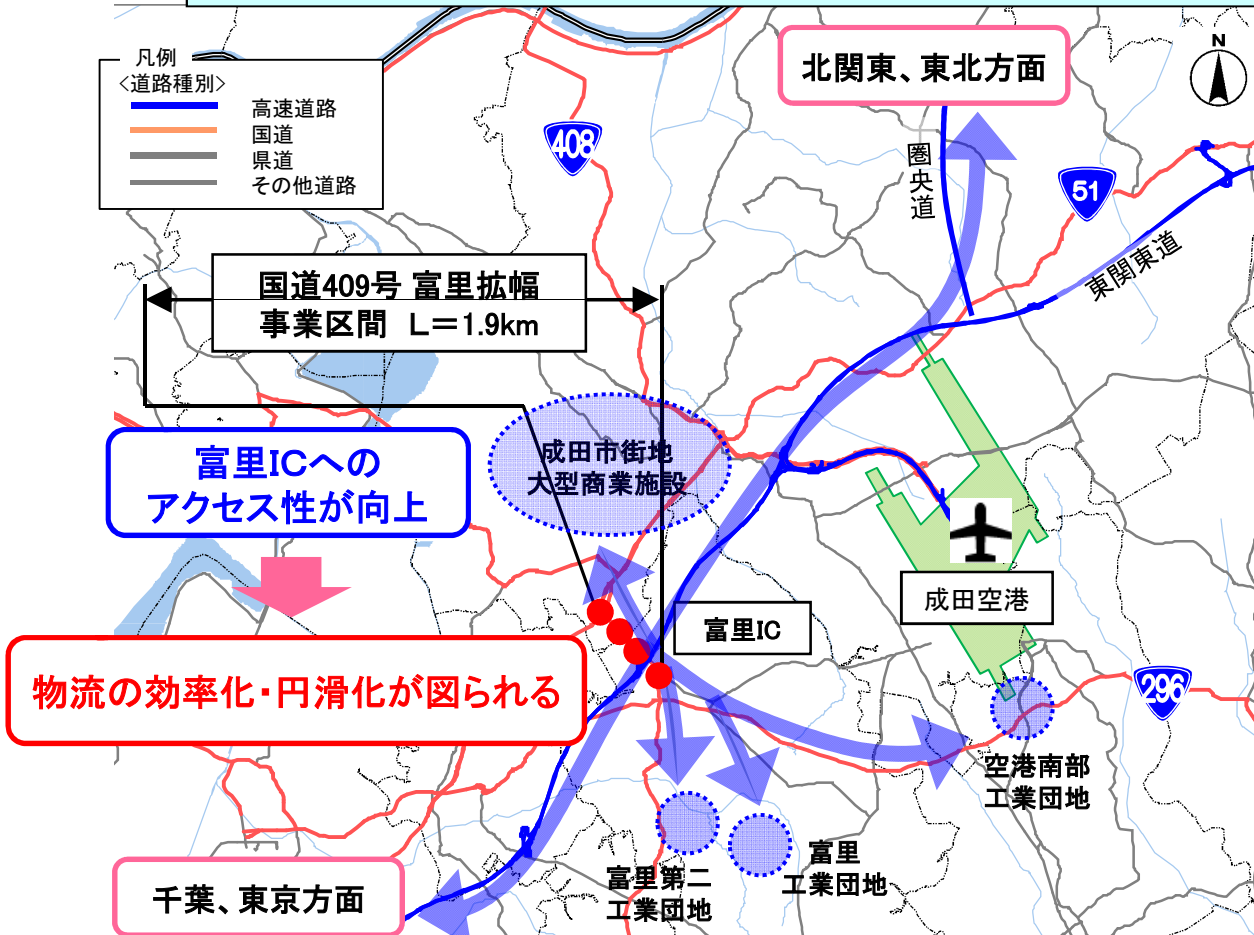
▲整備済み区間の整備前後における事故件数



4. 整備効果

(3)物流の効率化

- ・ 富里インターチェンジへのアクセス性が向上。
- ・ 時間短縮や定時性の確保。



▲製造業、運輸業の事業所・従業員数の推移 (富里市) データ: 各年経済センサス

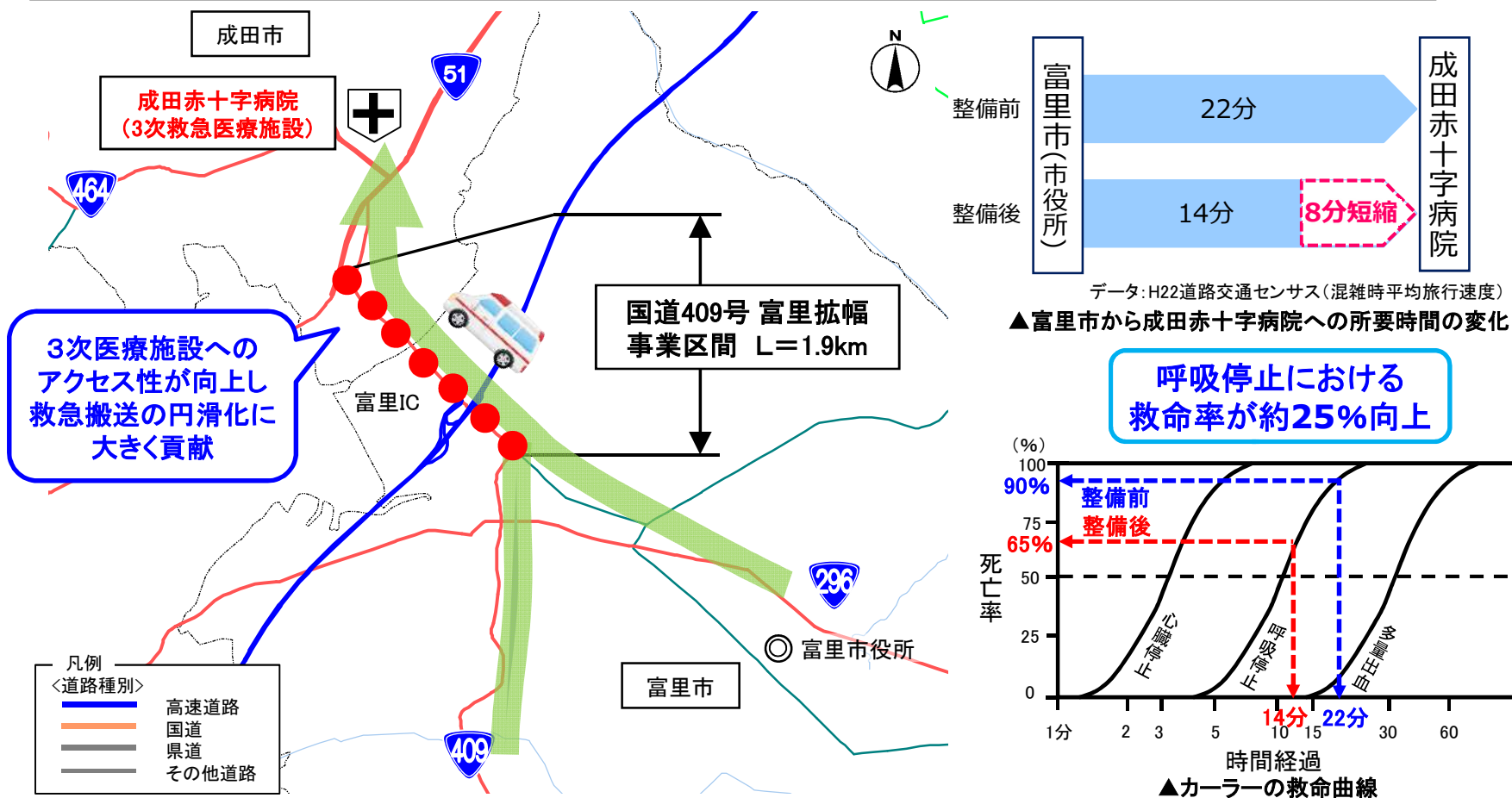


近年も物流施設の新規立地や規模拡大が相次ぐ

4. 整備効果

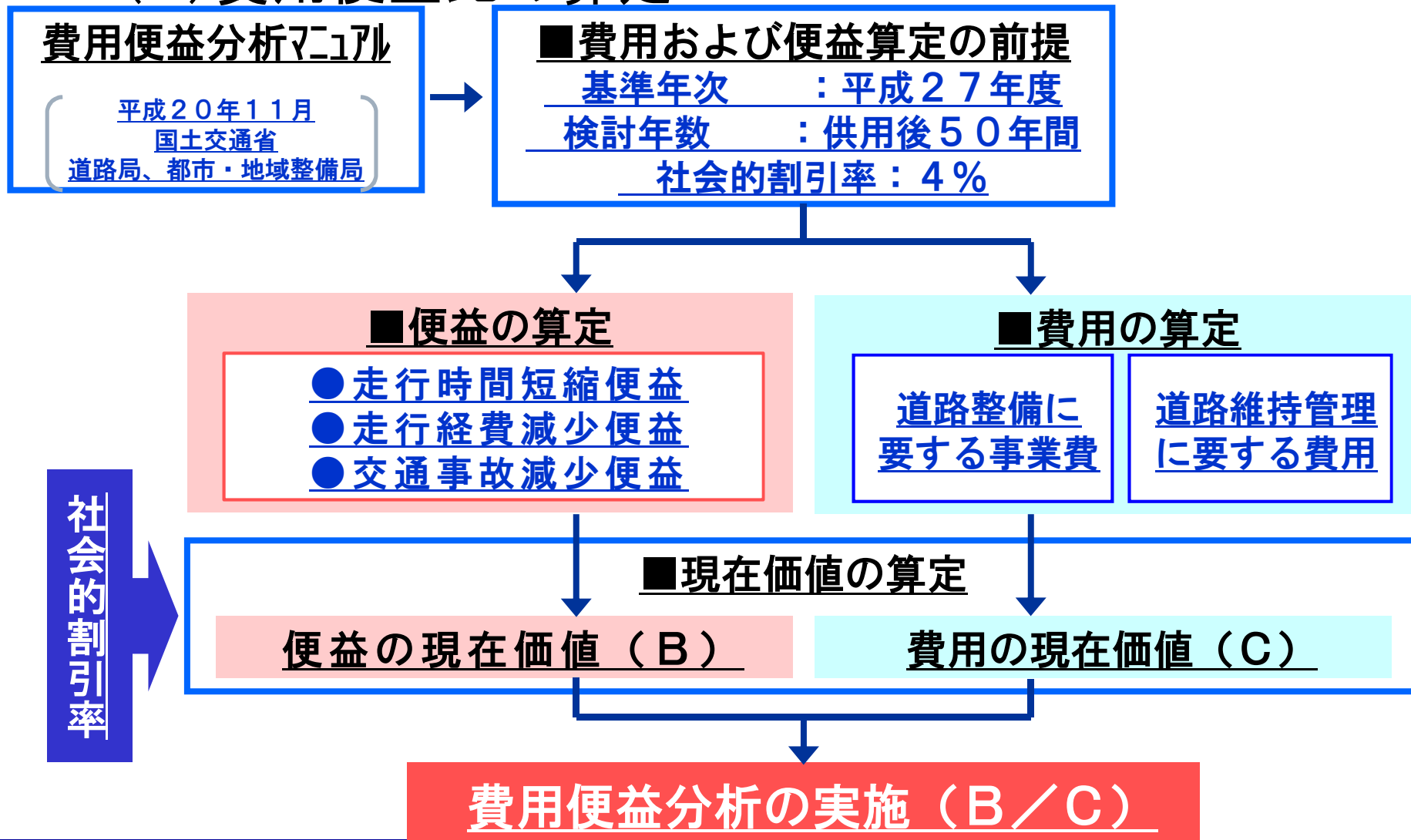
(4)救急医療への支援

- ・ 成田赤十字病院（3次救急医療施設）へのアクセス性が向上。
- ・ 救急搬送時間の短縮が図れ、救急医療への支援が期待。



5. 事業投資効果

(1) 費用便益比の算定



5. 事業投資効果

(2) 費用便益比

【事業全体】

便益 (B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	231億円	34億円	17億円	282億円	
費用 (C)	事業費	維持管理費		総費用	3.2
	87億円	1.0億円		88億円	

【残事業】

便益 (B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益	費用便益比 (B/C)
	49億円	15億円	6.6億円	70億円	
費用 (C)	事業費	維持管理費		総費用	6.5
	11億円	0.4億円		11億円	

基準年：平成27年度

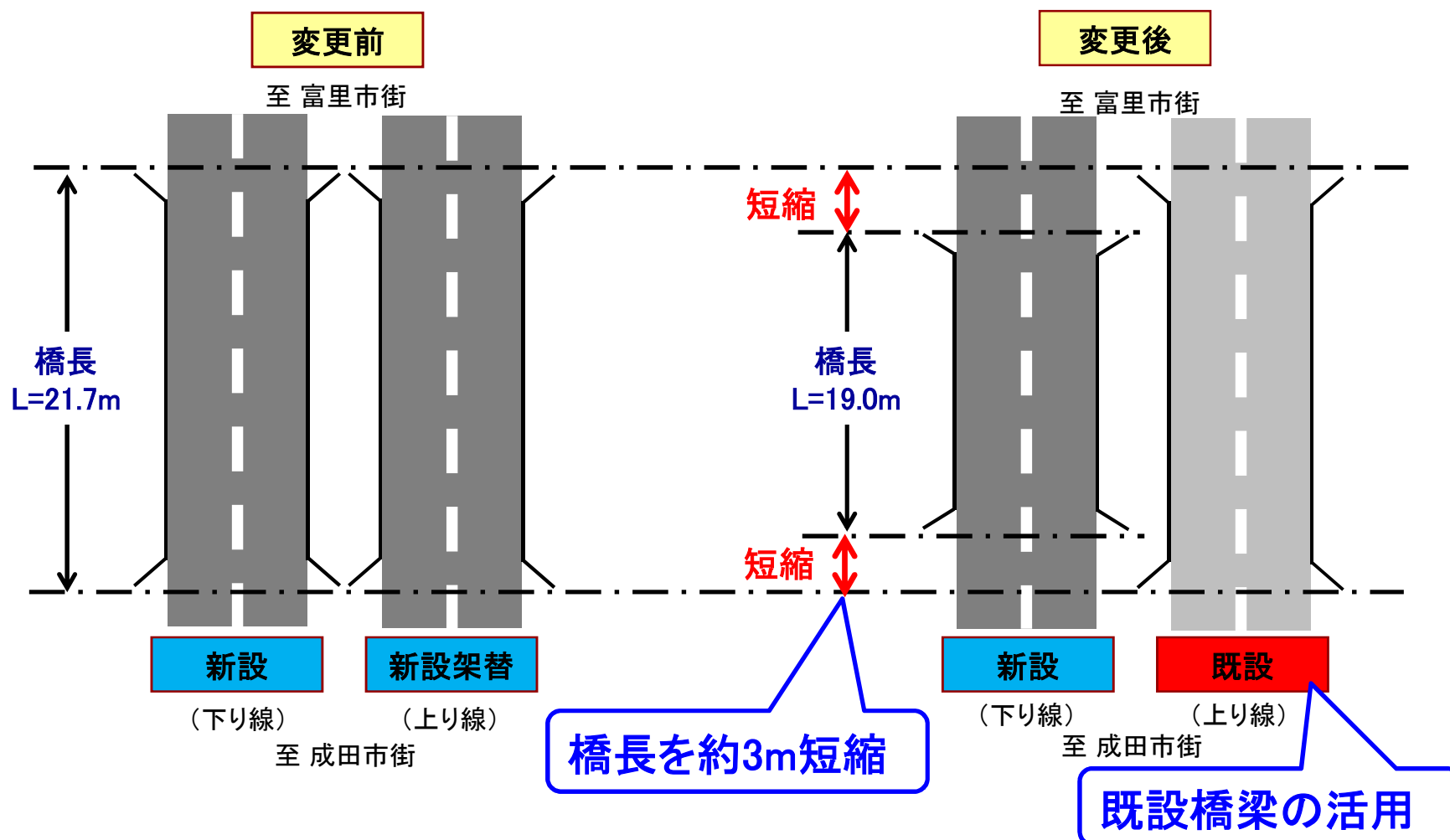
注1) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注2) 費用及び便益額は整数止めとする。(維持管理費を除く)

注3) 費用及び便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

6. コスト縮減

□ 既設橋梁の活用と新設橋梁の橋長短縮により事業費を縮減



7. 対応方針(案)

事業を継続し、効果の早期発現を目指す

【理由】

- 費用便益比(B/C) ⇒ 『 3.2 』
- 整備効果
 - ・交通の円滑化
 - ・安全性の向上(交通事故、通学路)
 - ・物流の効率化
 - ・救急医療への支援